

学びのガイド

令和5年度 全国学力・学習状況調査 練馬区の結果

社会の変化が激しく、予測が困難な時代において、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力を身に付けることが大切です。各学校では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を三つの柱とし、これからの時代に求められる力の育成に向けて、教育活動の充実を図っています。

文部科学省は、日々の指導の充実や改善等を目的に、小学校6年生(国語、算数)および中学校3年生(国語、数学、英語)を対象とした学力・学習状況調査を毎年実施し、児童生徒の実態把握に努めています。

この度、令和5年度に実施した本調査の結果を基に、練馬区の児童生徒の現状をまとめました。本リーフレットを参考に、各学校・家庭での取組に生かしていただきますようお願いいたします。

教科に関する調査の結果

練馬区は、全ての教科において、東京都や全国の結果よりも平均正答率が高くなっています。

国語

平均正答率 (%)	小学校 6 年	中学校 3 年
練馬区	70	74
東京都 (公立)	69	72
全国 (公立)	67.2	69.8

算数・数学

平均正答率 (%)	小学校 6 年	中学校 3 年
練馬区	69	57
東京都 (公立)	67	54
全国 (公立)	62.5	51.0

英語 (中学校のみ)

平均正答率 (%)	中学校 3 年
練馬区	55
東京都 (公立)	52
全国 (公立)	45.6

※練馬区・東京都の平均正答率は整数での発表です。

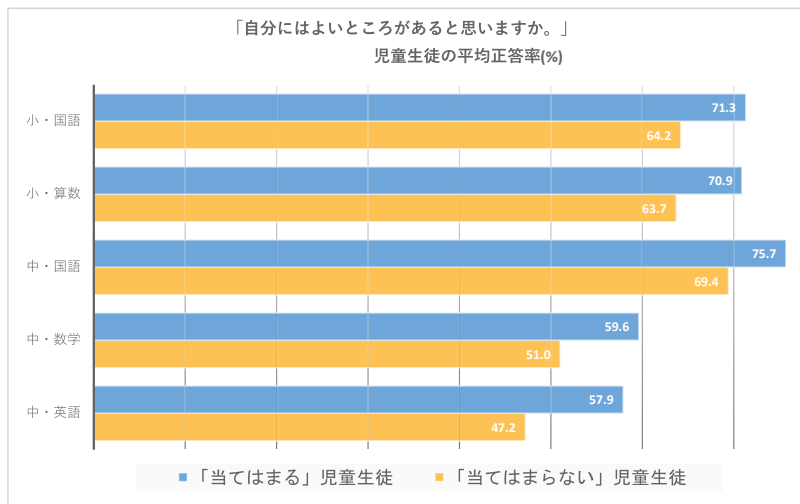
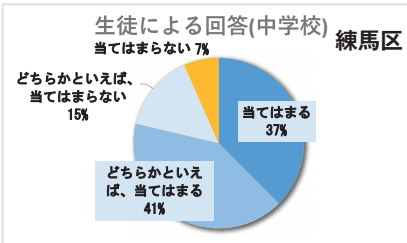
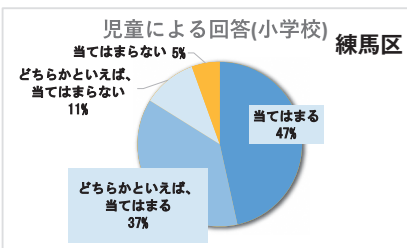
練馬区では、小学校の外国語活動(3~4年生)および外国語科(5~6年生)の全時間に ALT(外国語指導助手)の配置、小学校6年生および中学校2年生対象の英語4技能検定(GTEC)の実施等、英語教育の充実を図っています。その成果もあり、英語の平均正答率が全国よりも10ポイント程度高い結果となりました。

児童生徒質問紙調査の結果より①

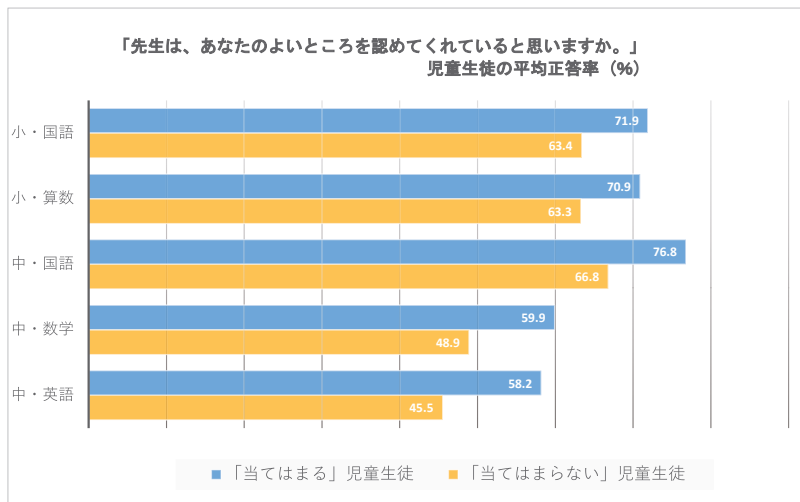
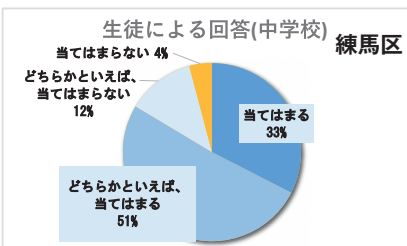
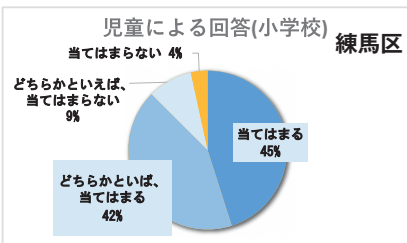
自己肯定感・自己有用感について

「自分にはよいところがあると思いますか。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という質問に肯定的な回答をした児童生徒ほど各教科の正答率が高い傾向にあります。

自分にはよいところがあると思いますか。



先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



学校では…

授業や児童生徒同士の関わりにおいて、一人一人の思いや考えを大切にす
る指導を通して、自他を尊重し、認め合
う態度を育むことが大切です。

家庭では…

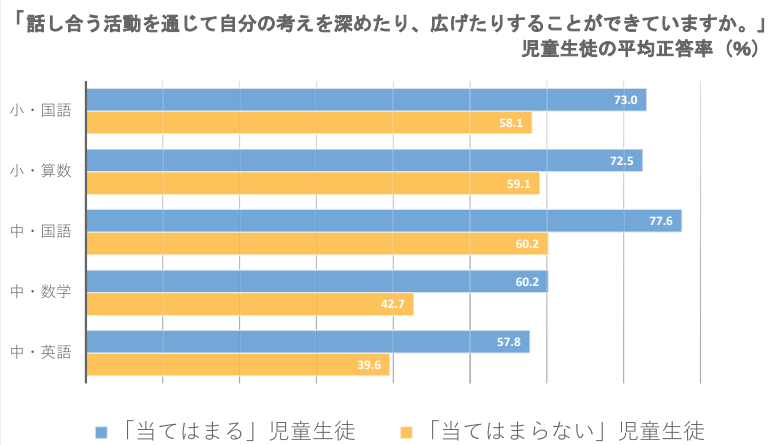
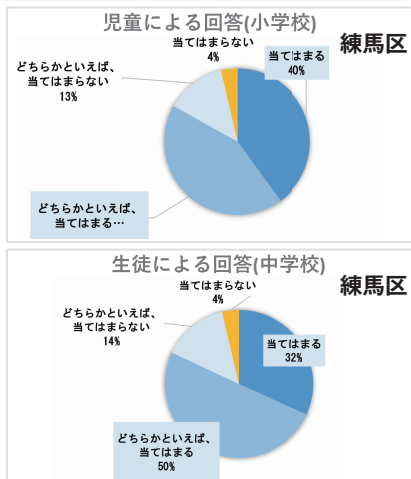
日頃から学校や友達との間であったこ
となど子供の話をよく聞き、がんばりをほ
めたり、認めたりする関わりが大切です。

児童生徒質問紙調査の結果より②

主体的・対話的で深い学びについて

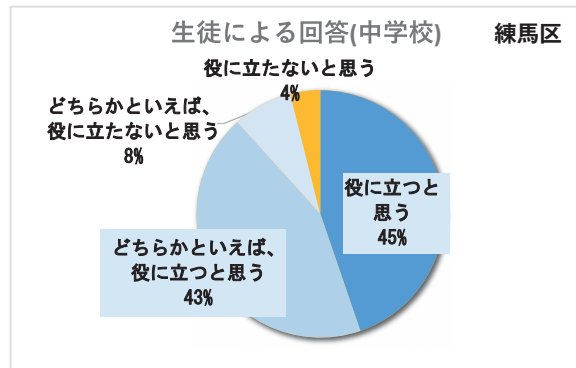
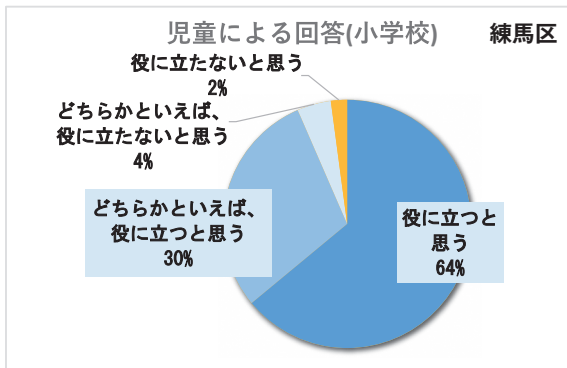
各学校では、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組んでいます。自ら課題を見つけ、他者と話し合いを行っている児童生徒は、各教科の正答率が高い傾向にあります。

話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

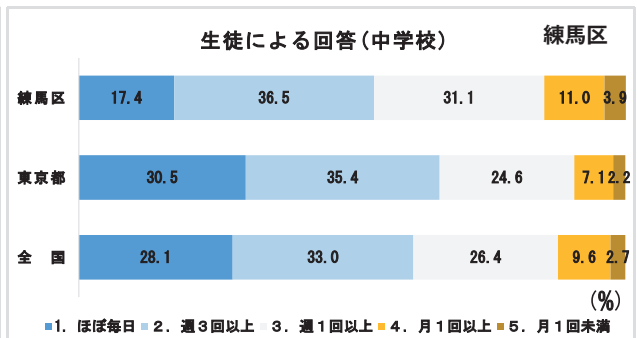
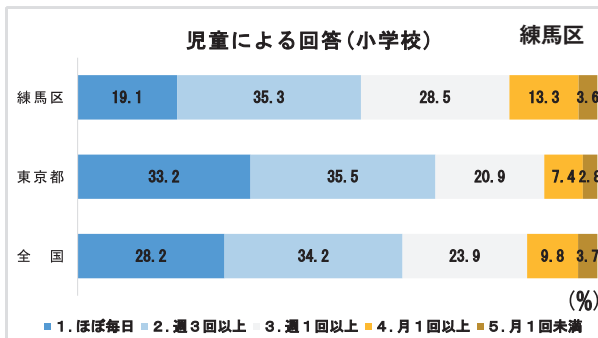


学習の様々な場面において、PCやタブレットなどのICT機器を効果的に活用することは、主体的・対話的で深い学びの実現につながります。一方、本区ではICT機器の活用は国や都の平均を下回っており、各学校では、これまで以上に効果的な活用を推進していく必要があります。

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



昨年度、受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。



※集計結果における百分率は、四捨五入して示しているため、百分率の合計が100%にならないことがあります。

区内中学校の研究実践より

練馬区立上石神井中学校の研究

調査の分析

上石神井中学校では、東京都の研究指定を受け、令和3年～令和5年の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」ことを課題として、次のような取組を進めてきました。

教員

課題を意識した授業改善

- ・正答を求めるだけでなく、正答に至る過程やその理由を説明し合う機会を意図して設定した。
- ・ICT 機器を活用することで生徒の思考を可視化するとともに、内容を班員やクラス全体で共有するような活動を取り入れた。

生徒

学びに向かう力の育成

- ・生徒による学習の振り返りを促すワークシートを作成し活用した。
- ・学習の意義や家庭学習の大切さなど資料を配信し学習意欲を高めた。

家庭

効果的な家庭学習

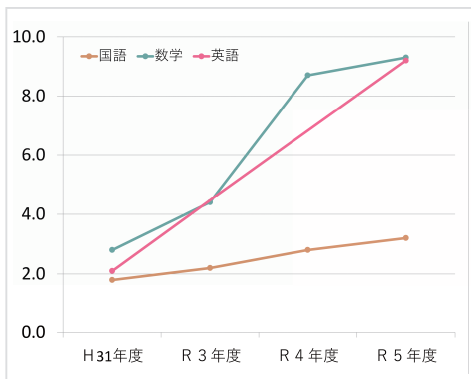
- ・生徒が家庭での学習の計画や記録を行う計画表を作成した。
- ・家庭学習の取組を班の中で発表し、互いの取組を参考にした。

成果

・平均正答率の向上

・学習への取組姿勢の改善

【上石神井中学校と全国の平均正答率との差】



※全国に比べ、当該校の平均正答率は高く、その差は年々上昇した。

児童生徒が学習課題に対して思考し、判断・表現する活動を充実させたり、学校でも家庭でも自ら計画的に取り組んだりできる環境づくりが大切です。児童生徒が、自らの課題を把握したり、見通しをもって学習したりすることで効果的に学習することができます。

児童生徒の学びのために…

本調査の分析より、自己肯定感を育むことや主体的・対話的で深い学びの取組の視点、児童生徒が主体的に学ぶことなどが大切であることが分かります。学校や家庭において、子供との関わりを充実させていきましょう。